

令和 7 年度 事業計画

公益財団法人 滋賀県陶芸の森

1 基本方針

陶芸の森は、滋賀県の伝統文化にして主要な地域産業である信楽焼をベースに、「陶芸文化創造の世界的拠点」となることを目指している。

令和 7 年度は、県および甲賀市からの指定管理第 4 期（5 年間）の最終年度であり、陶芸の森開設 35 年となる。第 4 期中期経営計画に基づいて、引き続き誘客の推進、国際的な情報発信、魅力ある展覧会の開催、次世代育成などの事業を積極的に展開し、陶器産業の振興と陶芸文化の向上に寄与する。

また、隣接する信楽窯業技術試験場（以下「試験場」という。）との連携をより一層深め、互いの強みを活かし協力しながら、産地の担い手育成に努めるなど、陶器産業の振興支援策を促進する。

さらに、大阪・関西万博やわたし SHIGA 輝く国スポ・障スポの開催を見据え、県、甲賀市、関係機関および観光団体等と連携し、より多くの国内外観光客の甲賀市内をはじめとする信楽地域や陶芸の森への誘導に向けた企画を実施する。

なお、施設の老朽化に加え、長引くエネルギー・原材料価格の高止まりや人件費の上昇に伴い、事業財源への影響が懸念されるなど、先行きが不透明な部分もあるが、様々な生活様式に対応した事業展開が求められる中で、開設 35 周年を迎えることを機に、陶芸の森がより一層、来園者や地域から親しまれ、利用される施設となるよう独自性のある事業の推進に努める。

2 事業計画

(1) 県民に親しまれる施設運営に関する事業

ア 公園の魅力の向上

県が部局横断で取り組む「THE シガパーク」プロジェクトによる発信とともに、太陽の広場などでの公園機能の充実を図り、来園者に対して快適な空間の提供とサービスの向上に努める。

イ 地域の観光拠点としての集客促進事業

陶芸の森の地域資源を活かしながら、やきものファンに信楽をより知ってもらう陶芸制作講座「しがらき学ノススメ！」や作家が直接販売する「セラミック・アート・マーケット」の開催、一般参加型のイベントの誘致など、陶芸の森の魅力を向上し、集客の促進を図る。

(2) 地元陶器産業の振興に関する事業

ア 試験場との連携事業

テーマ企画展の開催を通して優れた試作品の掘り起こしを進め、陶芸の森の展覧会における調査などで得られた資料やデータをもとに、新たな製品開発に向けた企画提案を進める。また、試験場の研修生や、試験場主催のコトづくりセミナーの参加者に対し、滞在アーティストや職員による講演、施設案内等を行い、アートやデザイン感覚等の向上を図る機会を提供するほか、試験場の VR 技術を活用し、陶芸館所蔵品のデジタル情報を順次追加することで、アーカイブサイトの充実を図り、インターネットによる展覧会の開催を試みるなど、様々な情報を発信する。

イ 信楽高等学校への支援事業

信楽高等学校の各学年に対し、陶芸の森で体験実習や授業を行い、信楽高等学校地域支援協議会等の地域

団体と連携して地域での人材育成を支援する。

ウ 若手陶器産業後継者等への支援事業

若手陶芸作家の発掘や陶器産業後継者の育成支援の一環として、陶芸館ミュージアムショップの「カプセルトイ」で販売するモデル作品を広く公募し、デザインの優れたモデルについては、賞の授与に加え、陶芸館ミュージアムショップの「カプセルトイ」で販売する。また、次世代に向けての産業振興につなげるため、信楽陶器工業協同組合青年部と共同して古琵琶湖層穴窯プロジェクトを実施する。

(3) 陶芸文化の向上と交流に資する事業

ア 展覧会開催事業

新しい視点を交えながら、多彩な魅力あふれる展覧会を開催し、陶芸文化の向上を図る。また、陶芸の森と地域との連携強化として、地元企業や店舗、甲賀市、大学と連携した企画展を開催するとともに、近年のデジタル化に着目し、隣接する試験場の協力を得て、収蔵作品の紹介や展覧会の広報に努める。

(ア) シリーズ・やきもの×グルメⅡ「近江の古陶磁を味わう…湖国の料理とともに」

(イ) 「民藝から関係へーコミュニティデザインの視点からー」

(ウ) 特別展「九谷赤絵の極致 宮本屋窯と飯田屋八郎右衛門の世界」

(エ) 特別展「20世紀北欧デザインの巨匠 スティグ・リンドベリ」

(オ) 陶芸館ギャラリー企画

イ 創作事業（アーティスト・イン・レジデンス事業）

国内外からのスタジオ・アーティスト（研修作家）の受入れや、ゲスト・アーティストの招聘を通じて、やきもの産地特有の伝統的な要素と現代のトレンドとの交流を活発化させるとともに、より良い作家を多く受け入れることで、信楽の知名度向上に貢献する。

また、陶芸家の派遣も含め、国内外の類似機関との連携を強化し、信楽から世界に向けて積極的に陶芸文化の情報を発信する。

ウ 子どもやきもの交流事業

陶芸の森の特性を活かし、子どもたちを対象に、やきものに関する鑑賞や体験事業を様々な形で展開する「つつっこプログラム」をさらに充実させることで、信楽焼を始めとした陶芸文化の普及や陶芸の森へのリピーター確保を促進し、次世代の陶芸の森ファン獲得に繋げる。

また、学校行事として来園した際の展覧会鑑賞や登り窯見学の充実を図り、心豊かで創造力にあふれた人材の育成に努めるとともに、子どもたちや障がいがある方の造形活動に対して支援する。

特に、今年4月に県と県内6施設・団体が「滋賀キッズミュージアムネットワーク協定」を締結したことにより、これまで各館が独自で行ってきた子ども向けのプログラムや情報発信などの連携や、大阪・関西万博や北部振興の取組などを協力して実施する。

(4) 企画事業

来園者に対し、展覧会図録や陶芸関係書籍およびオリジナルグッズ、カプセルトイ、特別展開連商品等、独自色のある商品の販売を行う。

併せて、インターネットを活用したオンラインショップによる商品提供や、民間事業者と連携した企画実施により販売を促進するとともに、地元企業等とも連携し、企画展示ごとのイメージや客層に合わせたラインアップならびに店頭ディスプレイに工夫をして、来館者の購買率を高める。また、SNS等を活用した積極的な情報発信を行い、新規顧客層の開拓を進める。

収 支 予 算 書

自 令和 7 年 4 月 1 日
至 令和 8 年 3 月 31 日

(単位 千円)

科 目	本 年 度	前 年 度	比 較	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1 経 常 増 減 の 部				
(1) 経 常 収 益				
基 本 財 産 運 用 益	7	1	6	
事 業 収 益	238,747	248,934	△ 10,187	
雑 収 益	1,557	1,542	15	
経 常 収 益 計	240,311	250,477	△ 10,166	
(2) 経 常 費 用				
事 業 費	242,059	246,351	△ 4,292	
管 理 費	4,252	4,126	126	
経 常 費 用 計	246,311	250,477	△ 4,166	
(うち人件費)	104,278	102,605	1,673	
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 6,000	—	△ 6,000	
評 価 損 益 等 計	—	—	—	
当 期 経 常 増 減 額	△ 6,000	—	△ 6,000	
税引前当期一般正味財産増減額	△ 6,000	—	△ 6,000	
法人税、住民税及び事業税	2,000	2,000	—	
当期一般正味財産増減額	△ 8,000	△ 2,000	△ 6,000	
一般正味財産期首残高	123,932	125,932	△ 2,000	
一般正味財産期末残高	115,932	123,932	△ 8,000	
II 指定正味財産増減の部				
受 取 寄 付 金	100	100	—	
当期指定正味財産増減額	100	100	—	
指定正味財産期首残高	31,534	31,434	100	
指定正味財産期末残高	31,634	31,534	100	
III 正味財産期末残高	147,566	155,466	△ 7,900	

収 支 予 算 書 内 訳 表

自 令和 7 年 4 月 1 日
至 令和 8 年 3 月 31 日

(単位 千円)

科 目	公益目的 事業会計	収益事業 等 会 計	法人会計	内 部 取 引 消 去	合 計
I 一般正味財産増減の部					
1 経 常 増 減 の 部					
(1) 経 常 収 益					
基本財産運用益	4	—	3	—	7
事業収益	208,011	30,736	—	—	238,747
雑収益	—	1,554	3	—	1,557
経常収益計	208,015	32,290	6	—	240,311
(2) 経 常 費 用					
事業費	221,466	20,593	—	—	242,059
管理費	—	—	4,252	—	4,252
経常費用計	221,466	20,593	4,252	—	246,311
(うち人件費)	100,132	1,965	2,181	—	104,278
評価損益等調整前当期経 常増減額	△ 13,451	11,697	△ 4,246	—	△ 6,000
評 価 損 益 等 計	—	—	—	—	—
当 期 経 常 増 減 額	△ 13,451	11,697	△ 4,246	—	△ 6,000
他 会 計 振 替 額	5,667	△ 5,667	—	—	—
税引前当期一般正味財産 増減額	△ 7,784	6,030	△ 4,246	—	△ 6,000
法人税、住民税及び事業 税	—	2,000	—	—	2,000
当期一般正味財産増減額	△ 7,784	4,030	△ 4,246	—	△ 8,000
一般正味財産期首残高	132,576	50,236	△ 58,880	—	123,932
一般正味財産期末残高	124,792	54,266	△ 63,126	—	115,932
II 指定正味財産増減の部					
受 取 寄 付 金	100	—	—	—	100
当期指定正味財産増減額	100	—	—	—	100
指定正味財産期首残高	16,534	—	15,000	—	31,534
指定正味財産期末残高	16,634	—	15,000	—	31,634
III 正 味 財 産 期 末 残 高	141,426	54,266	△ 48,126	—	147,566

資金調達および設備投資の見込みについて

自 令和 7 年 4 月 1 日

至 令和 8 年 3 月 31 日

1 資金調達の見込みについて

なし

2 設備投資の見込みについて

なし

令和6年度事業報告

公益財団法人 滋賀県陶芸の森

1 事業概要

陶芸の森は、滋賀県の伝統文化にして主要な地域産業である信楽焼をベースに、「陶芸文化創造の世界的拠点」となることを目指している。

令和6年度は、県および甲賀市からの指定管理第4期（5年間）の4年目として、第4期中期経営計画に基づき、県、甲賀市と連携を図り、誘客の推進、国際的な情報発信、魅力ある展覧会の開催、次世代育成などの事業を積極的に展開し、陶器産業の振興と陶芸文化の向上に努めた。

また、隣接する信楽窯業技術試験場（以下「試験場」という。）との連携をより一層深め、互いの強みを活かし協力しながら、陶器産業の振興支援策を行ったところである。

そうした中で、令和6年度の入園者数は、昨年度から継続する特別展「リサ・ラーソン展」が大変好評だったこともあり、目標値の35万人を上回る352,512人となった。

2 事業実績

(1) 県民に親しまれる施設運営に関する事業

ア 公園の魅力の向上

桜の植栽や滋賀県産材を活用したベンチの設置など、太陽の広場などの公園機能の充実を図り、来園者に快適な空間の提供とサービスの向上に努めた。また、県が取組を進めている「THEシガパーク」プロジェクトにより、11月3日に開催された「THEシガパークフェスタ」に参加した。

イ 地域の観光拠点としての集客促進事業

陶芸の森の地域資源を活かしながら、やきものファンに信楽をより知ってもらうために、陶芸体験講座として「しがらき学ノススメ！」や「セラミック・アート・マーケット」などのイベントを開催した。

(2) 産業の振興に関する事業

ア 試験場との連携事業

陶芸の森に移管された試験場旧蔵作品を活用し、最新の調査で得られた情報などを随時追加更新しながら、試験場を軸とした信楽の近代化のあゆみを紹介した。また、戦前の昭和3年から昭和16年に県立窯業試験場で試作されたカップ&ソーサー16点と関係資料を、最新の調査から得られた成果を交えて紹介した。また、日根野作三のデザインを活用した製品開発への協力や試験場研修生等に対して滞在アーティスト等による講座を開催した。

イ 信楽高等学校への支援事業

信楽高等学校の支援を信楽高等学校地域協議会等の地域団体と連携して行い、地域での人材育成を支援した。

ウ 若手陶器産業後継者等への支援事業

若手陶芸作家の発掘や陶器産業後継者の育成支援の一環として、陶芸館ミュージアムショップの「カプセルトイ」で販売するモデル作品を広く公募し、デザインの優れた作品については、賞を授与するとともに、陶芸の森が一定数を購入してミュージアムショップの「カプセルトイ」で販売し、若手陶芸作家等への支援の一助とした。

(3) 陶芸文化の向上と交流に資する事業

ア 展覧会開催事業

年間を通じて下記の4つの展覧会事業とギャラリースペースを活用した陶芸館独自の企画展を行った。

(ア) 特別展「リサ・ラーソン展 知られざる創造の世界〜クラシックな名作とともに〜」

(イ) シリーズ・やきもの×グルメⅠ「シェフ イチ推しの、Shigaraki Style」

(ウ) 特別展「躍動するアジア陶磁ー町田市立博物館所蔵の名品から」

(エ) シリーズ・やきもの×グルメⅡ「近江の古陶磁を味わう…湖国の料理とともに」

(オ) 陶芸館ギャラリー企画

イ 創作事業（アーティスト・イン・レジデンス事業）

国内外からスタジオ・アーティスト（研修作家）の受入れや、ゲスト・アーティストの招聘などを行うことによって、やきもの産地特有の伝統的な要素と現代のトレンドとの交流を活発化させるとともに、より良い作家、意欲的な作家を受け入れることによって、信楽から世界に向けて陶芸文化の情報を発信し、信楽地域の知名度向上に寄与した。新型コロナウイルス感染症流行のため、受入れを延期していたアーティストを優先して受け入れる形でレジデンスの運営を行った。

ウ 子どもやきもの交流事業

陶芸作家や地元産業、福祉、教育の関係者等で構成する「世界にひとつの宝物づくり実行委員会」とともに、やきものに関する鑑賞教育や作陶体験など、学校との連携プログラムを展開し、信楽焼を始めとした陶芸文化の普及や、次世代の陶芸の森ファン獲得に努めるとともに、子どもたちや障がいがある方の造形活動に対して支援した。また、令和7年度に開催予定のわたSHIGA輝く国スポ・障スポとの連携事業として、「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ『炬火受皿づくり』」を実施した。

(4) 企画事業

ミュージアムショップを運営し、展覧会関連商品、オリジナル商品、陶芸関係書籍を販売した。また、インターネットを活用したオンラインショップでの商品の提供や販売の促進に努めた。

正味財産増減計算書

自 令和 6 年 4 月 1 日

至 令和 7 年 3 月 31 日

(単位 円)

科 目	本 年 度	前 年 度	比 較
I 一般正味財産増減の部			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	654	600	54
特定資産運用益	1,369	109	1,260
事業収益	299,241,492	273,547,658	25,693,834
雑収益	1,043,796	1,815,686	△ 771,890
経常収益計	300,287,311	275,364,053	24,923,258
(2) 経常費用			
事業費	288,866,468	264,621,281	24,245,187
管理費	4,203,701	3,925,942	277,759
経常費用計	293,070,169	268,547,223	24,522,946
(うち人件費)	101,465,067	101,626,683	△ 161,616
評価損益等調整前当期経常増減額	7,217,142	6,816,830	400,312
評価損益等計	—	—	—
当期経常増減額	7,217,142	6,816,830	400,312
税引前当期一般正味財産増減額	7,217,142	6,816,830	400,312
法人税、住民税及び事業税	2,212,700	2,411,500	△ 198,800
当期一般正味財産増減額	5,004,442	4,405,330	599,112
一般正味財産期首残高	178,140,825	173,735,495	4,405,330
一般正味財産期末残高	183,145,267	178,140,825	5,004,442
II 指定正味財産増減の部			
特定資産運用益	439	8	431
受取寄付金	—	3,000	△ 3,000
当期指定正味財産増減額	439	3,008	△ 2,569
指定正味財産期首残高	31,056,198	31,053,190	3,008
指定正味財産期末残高	31,056,637	31,056,198	439
III 正味財産期末残高	214,201,904	209,197,023	5,004,881

正味財産増減計算書内訳表

自 令和 6 年 4 月 1 日

至 令和 7 年 3 月 31 日

(単位 円)

科 目	公益目的 事業会計	収益事業 等 会 計	法人会計	内 部 取 引 消 去	合 計
I 一般正味財産増減の部					
1 経 常 増 減 の 部					
(1) 経 常 収 益					
基本財産運用益	327	—	327	—	654
特定資産運用益	—	—	1,369	—	1,369
事業収益	218,897,652	80,343,840	—	—	299,241,492
雑収益	—	1,017,380	26,416	—	1,043,796
経常収益計	218,897,979	81,361,220	28,112	—	300,287,311
(2) 経 常 費 用					
事業費	224,947,071	63,919,397	—	—	288,866,468
管理費	—	—	4,203,701	—	4,203,701
経常費用計	224,947,071	63,919,397	4,203,701	—	293,070,169
(うち人件費)	97,324,404	1,923,145	2,217,518	—	101,465,067
評価損益等調整前当期経 常増減額	△ 6,049,092	17,441,823	△ 4,175,589	—	7,217,142
評 価 損 益 等 計	—	—	—	—	—
当 期 経 常 増 減 額	△ 6,049,092	17,441,823	△ 4,175,589	—	7,217,142
他 会 計 振 替 額	8,255,821	△ 8,255,821	—	—	—
税引前当期一般正味財産 増減額	2,206,729	9,186,002	△ 4,175,589	—	7,217,142
法人税、住民税及び事業 税	—	2,212,700	—	—	2,212,700
当期一般正味財産増減額	2,206,729	6,973,302	△ 4,175,589	—	5,004,442
一般正味財産期首残高	159,872,122	65,515,570	△47,246,867	—	178,140,825
一般正味財産期末残高	162,078,851	72,488,872	△51,422,456	—	183,145,267
II 指定正味財産増減の部					
特 定 資 産 運 用 益	439	—	—	—	439
当期指定正味財産増減額	439	—	—	—	439
指定正味財産期首残高	16,056,198	—	15,000,000	—	31,056,198
指定正味財産期末残高	16,056,637	—	15,000,000	—	31,056,637
III 正味財産期末残高	178,135,488	72,488,872	△36,422,456	—	214,201,904

貸 借 対 照 表

令和 7 年 3 月 31 日現在

(単位 円)

科 目	本 年 度	前 年 度	比 較
I 資 産 の 部			
1 流 動 資 産			
現 金 預 金	36,252,196	42,154,688	△ 5,902,492
未 収 金	4,886,648	14,332,845	△ 9,446,197
貯 蔵 品 (販 売 品)	1,981,340	1,813,993	167,347
流 動 資 産 合 計	43,120,184	58,301,526	△ 15,181,342
2 固 定 資 産			
(1) 基 本 財 産			
基 本 財 産 引 当 資 産	30,000,000	30,000,000	—
基 本 財 産 合 計	30,000,000	30,000,000	—
(2) 特 定 資 産			
退 職 給 付 引 当 資 産	65,281,656	61,104,397	4,177,259
売 店 改 修 積 立 資 産	1,400,000	1,400,000	—
資 産 購 入 積 立 資 産	6,621,182	6,414,348	206,834
記 念 事 業 等 積 立 資 産	4,000,000	4,000,000	—
やきもの振興基金積立資産	1,056,637	1,056,198	439
特 定 資 産 合 計	78,359,475	73,974,943	4,384,532
(3) そ の 他 固 定 資 産			
車 両 運 搬 具	53,135	106,588	△ 53,453
什 器 備 品	268,484	421,865	△ 153,381
電 話 加 入 権	12,000	12,000	—
陶 芸 作 品	152,577,000	152,577,000	—
そ の 他 固 定 資 産 合 計	152,910,619	153,117,453	△ 206,834
固 定 資 産 合 計	261,270,094	257,092,396	4,177,698
資 産 合 計	304,390,278	315,393,922	△ 11,003,644
II 負 債 の 部			
1 流 動 負 債			
未 払 金	19,715,518	38,692,202	△ 18,976,684
未 払 法 人 税 等	2,212,700	2,411,500	△ 198,800
未 払 消 費 税 等	2,978,500	3,988,800	△ 1,010,300
流 動 負 債 合 計	24,906,718	45,092,502	△ 20,185,784
2 固 定 負 債			
退 職 給 付 引 当 金	65,281,656	61,104,397	4,177,259
固 定 負 債 合 計	65,281,656	61,104,397	4,177,259
負 債 合 計	90,188,374	106,196,899	△ 16,008,525

科 目	本 年 度	前 年 度	比 較
Ⅲ 正味財産の部			
1 指 定 正 味 財 産			
県 補 助 金	25,000,000	25,000,000	—
市 補 助 金	5,000,000	5,000,000	—
寄 付 金	1,056,637	1,056,198	439
指 定 正 味 財 産 合 計	31,056,637	31,056,198	439
(うち基本財産への充当額)	(30,000,000)	(30,000,000)	(—)
(うち特定資産への充当額)	(1,056,637)	(1,056,198)	(439)
2 一 般 正 味 財 産	183,145,267	178,140,825	5,004,442
(うち特定資産への充当額)	(12,021,182)	(11,814,348)	(206,834)
正 味 財 産 合 計	214,201,904	209,197,023	5,004,881
負 債 及 び 正 味 財 産 合 計	304,390,278	315,393,922	△ 11,003,644